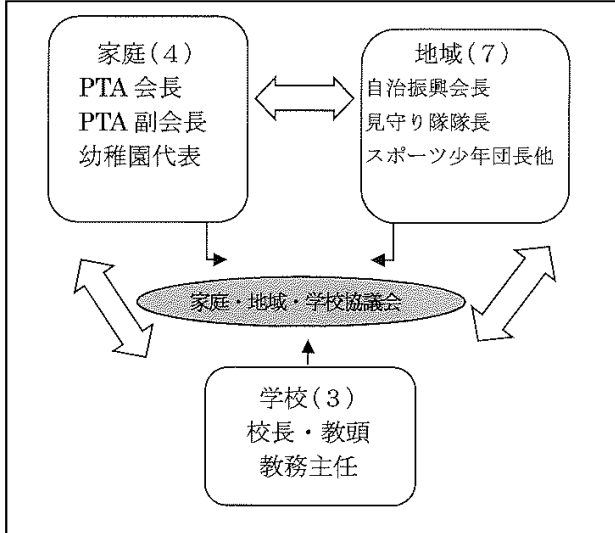


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

予定期日	活動内容および検討課題
6月下旬	本会の趣旨説明・活動計画 国高小学校学校計画について
12月上旬	教育活動の状況説明・検討 学校評価の検討
3月上旬	学校評価結果の分析・考察 次年度への提言

*地域コーディネーター（1名）
国高公民館長

(3) 協議会における成果と課題

協議会委員の方々に学校の取り組みや実態を理解していただくだけでなく、地域の方々が学校に期待することは何かを知ることができ、その思いを学校の教育活動に生かすことができた。地域の教育資源をさらに有効的に活用していく方法を模索していかなければならない。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

<5年生>

- ・日本の伝統的な食文化を知り、その食文化が脈々と続いてきた理由を調べることで「食」と「健康」について考え、よりよい食生活をめざす気持ちを涵養する。
- ・総合的な学習の時間を使って探究的な活動を行い、伝統食である「味噌汁」に関する知識を、1年かけて身につける。
- ・身につけた知識をもとに、国高地区食生活改善推進員の協力を得て、国高産の食材をつかった健康味噌汁をつくり、地域の方に向けて発信する。

<6年生>

- ・日本の伝統文化体験の一環として、「生け花」を体験し、日本の文化に関心を持ち、日本の文化や歴史を改めて見直し、自分の国の文化を誇りに思う児童を育成する。
- ・地域の方に児童が生けた「生け花」を觀賞していただき、伝統文化を大切にする気持ちを共有する。

(2) 活動の実際

<5年生>

1学期は、日本全国のご当地味噌汁について調べ、どうして味噌汁が全国各地にあり、受け継がれてきたかを調べ、発表した。

2学期に入ってから、福井県出身の石塚左玄について学び、宿泊学習でこども歴史博物

館に行き、石塚左玄に関するお話をうかがい、理解を深めた。また、栄養教諭からは「和食のだしについて」、校区の歯科医からは「食と歯の健康について」、養護教諭からは「食の塩分について」教えていただいた。

味噌汁づくりの具体的な計画に入ると、「歯にいい食材を入れないと」「だしをしっかり取ると塩分は控えめでもおいしい味噌汁になるね」など、ゲストティーチャーから学んだことを考えながら味噌汁を作っていた。

3学期には、学校保健会で、「国高のご当地味噌汁作りを通して」という内容で発表をする。学校保健会では、学校医だけではなく、公民館長、自治振興会会長、PTA会長、国高地区食生活改善推進員の方々も招待して、発表を聞いていただいた。また、当日は、5年生が考えた味噌汁をふまえた国高ご当地味噌汁を、国高地区食生活改善推進員の皆さんにつけていただき、ゲストの方々にも食べていただいた。最後には、5年生の活動に対する感想もいただき、自分たちの考えた味噌汁が何十年か後には、国高のご当地味噌汁になっているかもしれないと感想をもっていた。

<6年生>

社会科の時間に室町文化について調べ学習をして、生け花や茶道、和室の造りなどの「今につながる文化」に関する学習を重ねた。国高地区で「生け花」を教えていらっしゃる方の存在を知り、学校へ来ていただき、生け花の歴史の話をお聞かせいただいた。その後、6年生の3教室で、それぞれ生け花の体験活動を行った。

地区の保護者だけではなく、地区の方々にも作品を見ていただき、日本の伝統文化に対する思いを共有することができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ①地区内のゲストティーチャーの紹介
- ②国高地区食生活改善推進員との連携補助
- ③児童の発表に対する指導助言



(4) 特に工夫した事項

<5年生>

計画の段階から、地域の食生活改善推進員の方々にも授業に入ってもらい、料理の方法だけでなく、野菜の美しい切り方など、具体的なアドバイスを多くいただいた。地域の方々の支援があってこそ学習が深まった。学習の最後に、地域の方に発表を聞いていただく機会を設けたことは、学校の学習について理解していただくだけでなく、地域の方々にとっても、地域の今後の食生活について考えるよい機会となった。

<6年生>

「生け花」の歴史について、先生からお話を聞くことで、調べ学習で得た知識を実感することができた。また、体験学習の時期を地区文化祭と合わせたことで、全員分の児童の生け花を展示することができた。

(5) 成果と課題

- ・地域と進める体験推進事業も3年目となり、地域の方々にスムーズに学習に関わっていただくことができた。また、学習の終末で、どのような形で地域の方々に成果を返していくかを深く考えるようになった。ただ学校から一方的な発信をするだけではなく、地域の方々に何を提案し、どうしたら地域の役に立てるかを考え、提案に対する反応を知りたいと児童が思うようになった。